

第4学年〇組 国語科学習指導案

平成27年10月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇 印

1 単 元 読んで考えたことを話し合おう（ごんぎつね）

2 単元の目標

- (1) 叙述に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを進んで話し合おうとする。
- (2) 考えたことが文章に表れているか見直すとともに、自分の考えと相手の考えを比べることができる。
- (3) 登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。
- (4) 言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

3 学習の計画 (14時間完了)

- 第1次 第1時 新美南吉のブックトークを聞き、新美南吉について知る。
 第2時 学習課題を設定し、学習計画を立てる。
 第3時～第5時 第1～3場面を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。
 第6時（本時） 第4・5場面を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。
 第7時～第8時 第6場面を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。
- 第2次 第9時～第14時 物語の感想や話の続きを書き、読み合って感想を交流する。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 文章中の言葉に着目して、登場人物の気持ちを読み取ることができる。
- (2) 準備・資料
 - 教師……挿絵を拡大したもの
- (3) 関 連
 - 3年 国語 場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう「ちいちゃんのかげおくり」（場面ごとに出来事や登場人物の気持ちを考えながら読み、心打たれた場面の感想文を書く）
 - 5年 国語 すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう「大造じいさんとガン」（心情や場面の様子を味わいながら読み、効果的に用いられている表現について、自分の考えをまとめ、伝え合う）

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	1 前時までの学習を想起し、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ごんの行動や会話からごんの気持ちを読み取ろう。 </div>	5	○ 各自のノートを基に、前時までの内容を確認させる。
考える	2 第4場面の登場人物の気持ちを読み取り、発表する。 (1) 「ぶらぶら」出かけるごんの気持ちを考えて発表する。 ・楽しいことないかな。 ・今日は何して遊ぼうかな。		○ 事前に教科書に貼った付箋を基に、各自で考えてきたことを発表させる。 ○ まず隣同士で発表してから、全体に発表させる。 ○ 友達の発表を聞いて、新たに考えたことや事前に考えたことと違うことも発表してよいことを伝える。 ○ 「ぶらぶら」という言葉に着目し、楽しげな様子をつかませる。 ○ 「月のいい」という言葉にも着目させ、楽しげな気持ちをつかませる。

考 え る	(2) 二人の会話に耳を傾けているごんの気持ちを考えて発表する。 ・何の話をしているのかな。 ・おれの話をしているんじゃないか。 ・もっと話を聞きたいな。	15	○ ごんの好奇心の強さが、このような行動を起こさせることも押さえる。 ○ 挿絵を拡大したものを使って、位置関係を確認させる。 ○ 兵十の熱心な話しぶりに対する加助の気の無い返事についても触れておく。
	3 第5場面の登場人物の気持ちを読み取り、発表する。 (1) お念仏がすむまで、いどのそばにしゃがんでいごんの気持ちを考えて発表する。 ・話の続きが聞きたいな。 ・早くお念仏が終わらないかな。 (2) 二人の後を、かげぼうしを「ふみふみ」行くごんの気持ちを考えて発表する。 ・話が聞こえるようについて行かなきゃ。 ・そろそろおれの話が出てくるかな。	25	○ 第4場面の脚注を使って「お念仏」の意味を押さえる。 ○ 終わるまで時間がかかりそうなのに、しゃがんで待つまでも話を聞きたいごんの気持ちを考えさせる。 ○ 見つかるかもしれないのに、二人の後を付けていくごんの気持ちを考えさせる。 ○ 「ふみふみ」という言葉に着目させ、うきうきした、楽しい様子を押さえる。 ○ 「かげぼうしをふみふみ」の行動を動作化させ、二人との距離が縮まってきていることを体感させて、気持ちを読み取らせる。 評言葉や行動からごんの気持ちを想像したり、読み取ったりしている。(発表)
	4 「おれは引き合わないなあ。」にこめられた、ごんの気持ちを考える。 (1) 意見を交流する。 ・少しは、感謝してほしいなあ。 ・骨折り損だなあ。 ・もう少しおれだと分かるようにしてみようかな。 (2) 自分の考えをノートに書く。	40	○ 「引き合わない」の意味を押さえる。 ○ 前の場面では気の無い返事をしていた加助の言葉が、場面展開のきっかけになっていることに触れる。 ○ 「つまらないな」という言葉にも着目させる。 評「引き合わない」の意味を捉え、落胆したごんの気持ちを自分の言葉で書いている。(ノート、発表)
ま と め る	5 本時のまとめをする。	45	○ ノートに書いたことを発表させる。 ○ 第6場面では、兵十とごんのお互いに対する気持ちを考えることを知らせる。

(5) 本時の評価規準

- 「引き合わない」の意味を捉え、落胆したごんの気持ちを自分の言葉で書いている。(ノート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級では、各自で「読書の記録」を付けさせている。これは、本の題名や一言感想を記入し、読んだ本のページ数を積み上げていく、本学級独自のものである。読書の記録を見ると、児童は物語をよく読んでいるが、表現に工夫が凝らしてある内容のものはあまり読んでいない。また、物語を楽しんで読んでいるが、言葉に着目して読むことにはまだ慣れていない。

(2) 指導の力点

- 事前にごんの気持ちが分かる言葉や文章に波線を引き、想像したごんの気持ちを付箋に書かせ、教科書に貼らせてある。自分の考えをあらかじめもたせたうえで文章中の言葉に着目させることにより、授業内で考えが変わったり、深まったりできるようにさせる。

6 指導と評価